

カリフォルニアでのコロナ対応

夏目 有愉子 (なつめ あゆこ／アメリカ カリフォルニア州)

私の暮らすベイエリアでは加州の他の地域に先駆け3月半ばに Shelter-in-Place order（屋内退避令）が出て、不要不急の外出が禁止されました。感染者が増え始め、緊張感は高まっていたのですが、こんなに突然、人の行動や経済活動を止められるものかと驚きました。それ以来、食料品の買い出しと犬の散歩以外は外出を控え、家族銘々がPCの前で勉強や仕事をし、食事時にキッチンに集合する新しい日常に慣れてきたところで、5月から段階的な規制緩和が始まりました。今まで休業していた生活必需品以外の小売店などでも条件付きで営業が再開し、今は人の動きが出てきて、交通量も増え、徐々に活気を取り戻しつつあります。

外出禁止となった当初は、毎日がクリスマスデイのように静まりかえり、ハイウェイも近所の道もガラガラに空いていました。サンフランシスコ市内をコヨーテが散歩し、郊外の我が家周辺にはマウンテンライオンが下りてきたため、普段見かける鹿の家族が姿を消し、人間の活動が制限されたことによる変化は分かりやすく目に見えて表れました。

アメリカの都市部で大気汚染が激減した様子が分かるサテライト写真を子どもたちに見せ、コロナ終息後も毎年2週間は外出制限を設けたらどうかと提案すると、自分だけでなく皆でやるなら賛成とのこと。自分だけ我慢するのは嫌だけれど、目的に納得でき、皆が守るべきルールであれば受け入れられる。ルールを示す行政のリーダーシップは、今回のような非常時はもちろん、環境問題についても重要だと改めて思いました。また、普段からデバイスを使い慣れている子どもたちは、学校や習い事のオンライン化にすんなり適応しているのを見る

と、私の考えも少し変わりました。

ソフトウェアエンジニアの夫は、外出禁止になる前から在宅勤務に入り3カ月以上オフィスには行っていません。家に大きなモニターがないのは不便だそうですが、打ち合わせや会議は家にいても不都合なく、通勤にかかっていた時間は睡眠とジョギングにあてています。子どもたちは友達に会えないことが大きな問題ですが、学校の勉強や習い事はリモートで続けており、通学時間や行事の中止で時間が空いた分、お菓子を焼いたり、本を読む時間が増えました。子どもの学校や習い事への送り迎えで、毎日かなりの時間を車の中で費やしていた私にも余裕ができました。今まで、家族の予定を調整しながら忙しくしていただけに、家族そろって3食一緒に食卓を囲み、夕方には揃って犬の散歩をするゆっくりした時間は悪くありません。費やしていた時間と労力に見合わない移動も多かったのではないかという気づきもありました。

こちらは6月が卒業式、そして夏休みの始まりです。規制緩和が進んできたとはいえ、例年のような卒業式はできず、遠隔学習のまま夏休みを迎え、8月末からの新学期もオンライン授業と生徒入替え制での登校を組み合わせたハイブリッド式が検討されています。テック企業ではオフィス再開計画が発表され始めましたが、希望すれば秋まで、中には永久に在宅勤務を認める会社も出てきました。子どもはなるべく早く学校に戻って勉強できる日が来て欲しいものですが、一旦変わった働き方はそのまま元には戻らず、在宅勤務が特別措置でなく、一つの選択肢として受け入れられるように変わってくるのではないのでしょうか。